

# 2022-2023 年度 ソルボンヌ大学留学報告

渡 辺 采 香

本報告では、報告者のソルボンヌ大学留学までの経緯と 2023 年 1 月から 2023 年 9 月までの留学先での活動報告を行った。

報告者は、お茶の水女子大学大学院において 19 世紀フランスの旅行文学における中東・北アフリカ地域の女性ダンサーの表象を研究してきた。博士論文では、中東・北アフリカから極東までをも含む広い意味での「オリエント」という枠組みを、旅行記にあらわれる現地人ダンサーの描写を通して再検討することを目指している。したがって、文学におけるオリエンタリズム、ジャポニズムを専門とするソフィ・バッシュ先生に指導を依頼した。2021 年秋に、小松祐子先生、クリス・ベルアド先生の協力のもと 2022-2023 年度フランス政府奨学金の Doctorat 課程、言語・文学分野に応募し、合格することができた。その後、2022 年 12 月にフランスに渡り、2023 年 1 月に学籍登録が完了した。

渡仏後は、フランス国立図書館や大学図書館で先行研究の整理と当時の文献の調査を行っている。調査成果の一部は、日仏女性研究学会が主催する国際女性デー記念シンポジウムでのビデオ発表（「19 世紀フランスにおけるオリエントの女性ダンサー表象にみるズボン」、2023 年 3 月）、ジャポニズム学会国際シンポジウム（「19 世紀フランス旅行記における東洋の踊り——オリエンタリズムとジャポニズム」、2023 年 11 月）にて発表した。

個人での調査以外に、大学の修士課程の学生向けの講義、セミナー、研究発表会や講演会へ参加した。年金制度改革に関するデモやストライキの影響を受け、予定外の休講が目立ったものの、講義を通して研究に役立つ知識を得ることができた。たとえば、指導教員であるバッシュ先生の授業 « Paris, capitale de l'orientalisme et du japonisme. La critique d'art des écrivains » では、複雑な異文化受容のありさまを考察する鍵となる「文化移転 (transfert culturel)」という概念が紹介された。また、« Autour de Nyota Inyoka. Réinventer les danses d'Asie et d'Orient : chorégraphies, dessins, musées,

collections » という研究発表会では、舞踊研究の今日的論点に触れることができた。

フランス政府奨学金の給付は10月に終了したが、公益財団法人飯塚育英会の受給が決定し、2023-2024年度もフランス政府奨学生としての留学を継続することとなった。今後は、博士論文の完成を目指し、引き続き中東・北アフリカと日本の女性ダンサー像の調査・比較を行っていく。